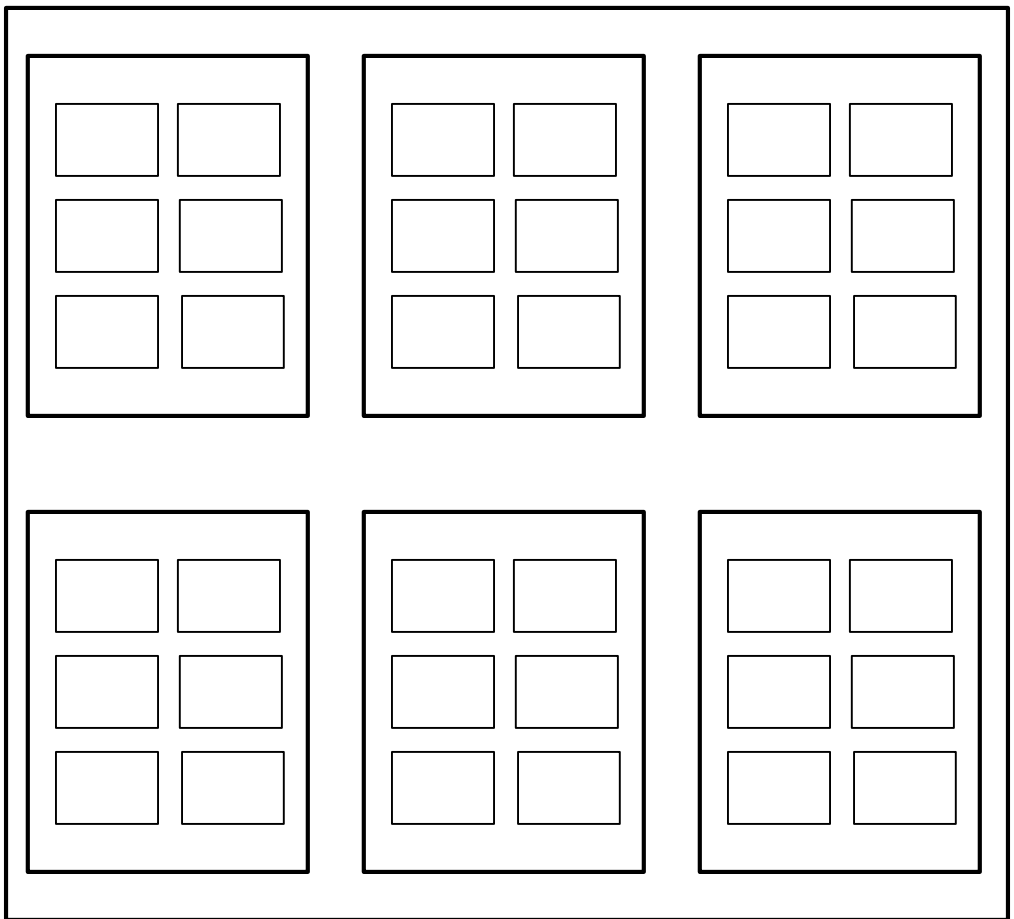


GTB

PlateGenerator ユーザーズマニュアル



商標について

- ✎ Windows はマイクロソフト社の商標です。
- ✎ Facilis、J-Plate は三菱製紙株式会社の商標です。
- ✎ その他、記載されている商品名は各社の商標です

第一章 お使いになる前に

1 . 動作環境とインストール.....	9
1 - 1 . 推奨動作環境	9
1 - 2 . PlateGenerator のインストール手順.....	10
2 . 概要	15
2 - 1 . Plate Generator について.....	15
2 - 2 . フォルダセット.....	16
2 - 3 . PPW より優先される設定情報.....	16
2 - 4 . 原稿画像やアクセサリ画像の場所について	17
2 - 5 . 生成した刷版データファイルの名称について	17
2 - 6 . 取り扱うファイル.....	18
3 . Windows 基本操作	19
3 - 1 . マウスの操作	19
3 - 2 . ウィンドウ操作.....	21
3 - 3 . リスト操作.....	24
3 - 4 . メニュー操作	26

第二章 PlateGenerator の操作

1 . 基本画面.....	29
2 . フォルダセットの編集.....	32
2 - 1 . フォルダセット編集ダイアログ	32
2 - 2 . 新規ジョブダイアログ	34
2 - 3 . フォルダセットの基本設定ダイアログ	35
2 - 4 . ジョブの詳細設定ダイアログ	37

3 . P P W-ジョブをバッチ実行する	39
4 . プログラムの終了	39
5 . HTML ログファイル.....	41
6 . 実行ログファイル	42
7 . エラー情報	43
7 - 1 . ジョブ全体のエラー情報	43
7 - 2 . 刷版データ処理時のエラー情報.....	44
7 - 3 . フォルダセットのエラー情報	45
8 . 運用上のご注意	45
9 . 単一ジョブの実行（プレート、色版の選択実行）	47
10 . 待機 JOB のコントロール.....	49
10 - 1 . 待機 JOB の実行順位を変更する	49
10 - 2 . 待機 JOB の実行を取り止める.....	49
11 . オプション設定.....	50

第三章 PJTF オプション

1 . PJTF オプションについて	53
2 . シートと刷版の関係について.....	53
2 . シートと刷版の関係について.....	54
3 . 使用色の判別について	55
3 - 1 . R I Pファイル名規則	55
3 - 2 . カラー定義テーブル.....	56
4 . 付け合せについて	56
4 - 1 . 刷版テンプレート	56
4 - 2 . シートの付け合せ順.....	58
5 . 取り扱うファイル	58
6 . P J T F - フォルダセットの編集	59

6 - 1 . 新しく PJTF 用フォルダセットを作成する	59
6 - 2 . PJTF ジョブ詳細設定ダイアログ	61
7 . PJTF-ジョブをバッチ実行する	63
8 . エラー情報	63

第一章

お使いになる前に

動作環境とインストール

PlateGenerator 概要

Windows の基本操作

1．動作環境とインストール

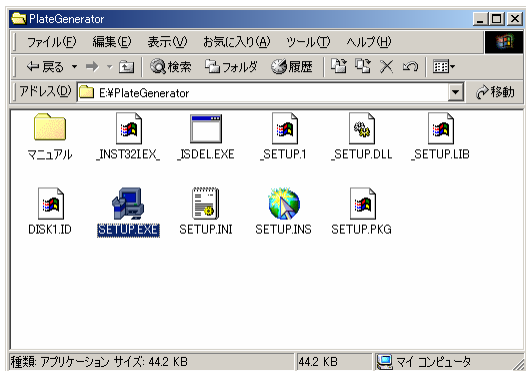
1 - 1．推奨動作環境

コンピュータ本体 : Pentium 1GHz以上
メモリ 512MB以上
ハードディスク : 40GB以上

OS : Windows2000

1 - 2 . PlateGenerator のインストール手順

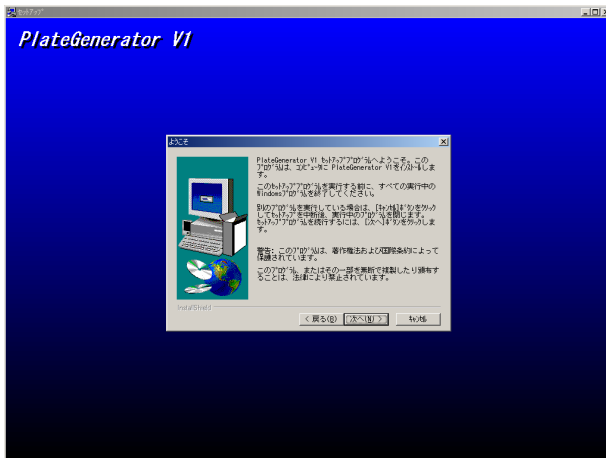
(注意) PlateGenerator は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。



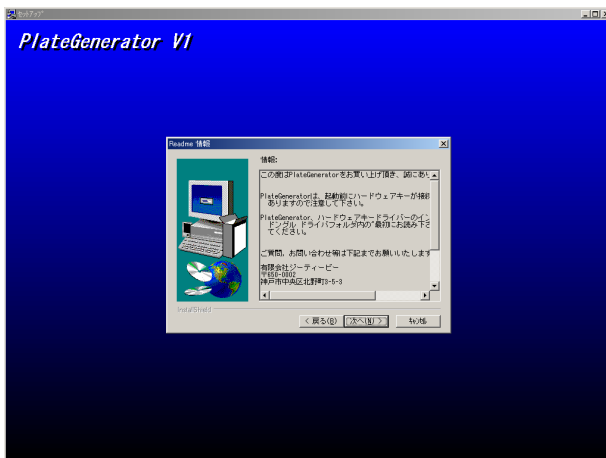
1) C D - R O M 内にある「SETUP.EXE」をダブルクリックします。



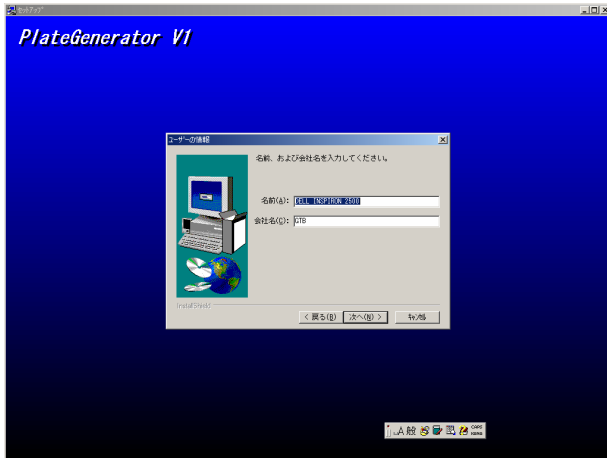
2) セットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



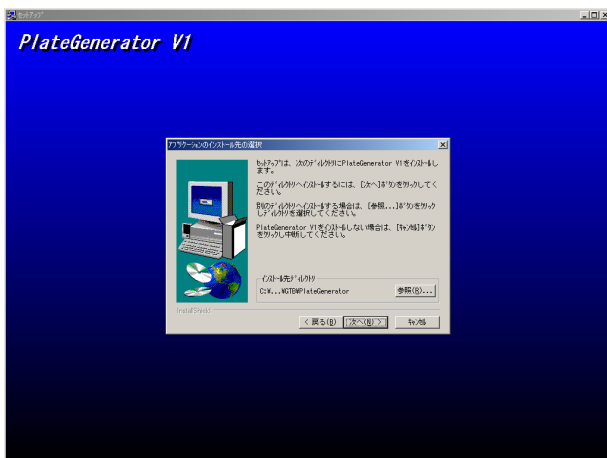
3) インストールにあたっての注意事項が表示されます。確認してから「次へ(N)」をクリックします。



4) 製造元情報が表示されます。確認してから「次へ(N)」をクリックします。

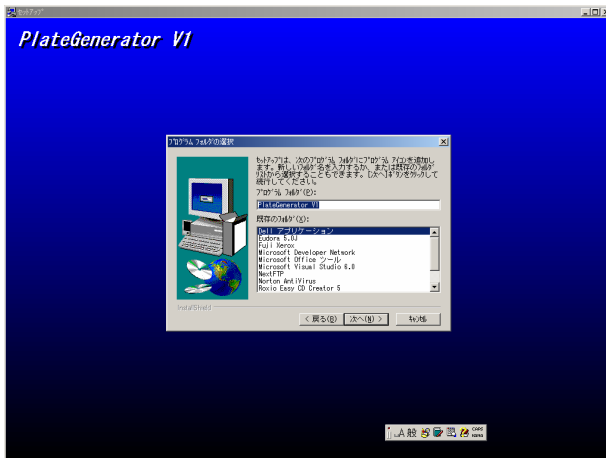


5) 名前と所属会社名を入力してから、「次へ (N)」をクリックします。

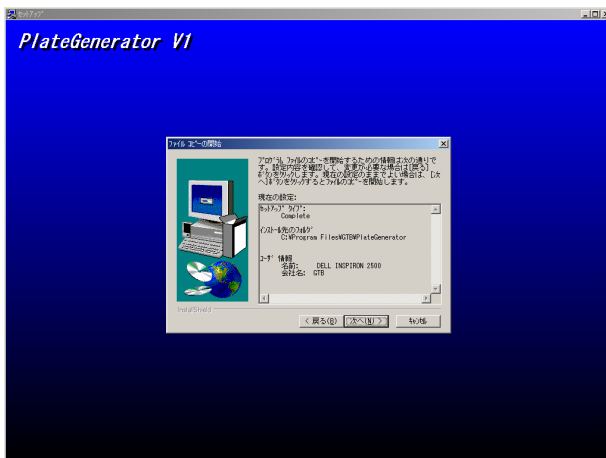


6) インストール先のフォルダを指定して、「次へ (N)」をクリックします。。

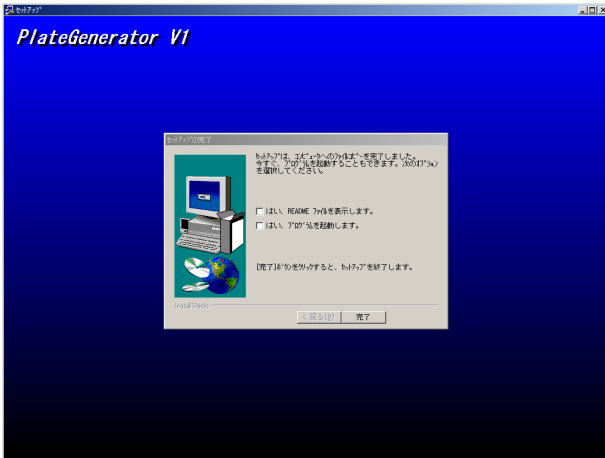
変更する場合は「参照 (R)」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。



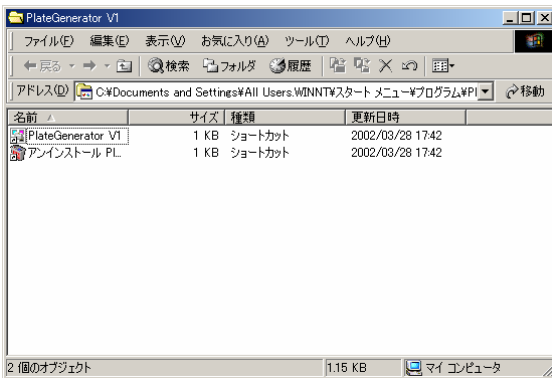
7) スタートメニューに登録するアイコンのフォルダ名を指定して、「次へ(N)」をクリックします。



8) 「次へ(N)」をクリックすると、インストールが始まります。



9) 「完了」をクリックするとインストールは終了です。



10) 指定したフォルダ内に作成された PlateGeneratorV1 をダブルクリックすると、プログラムが起動されます。

2 . 概要

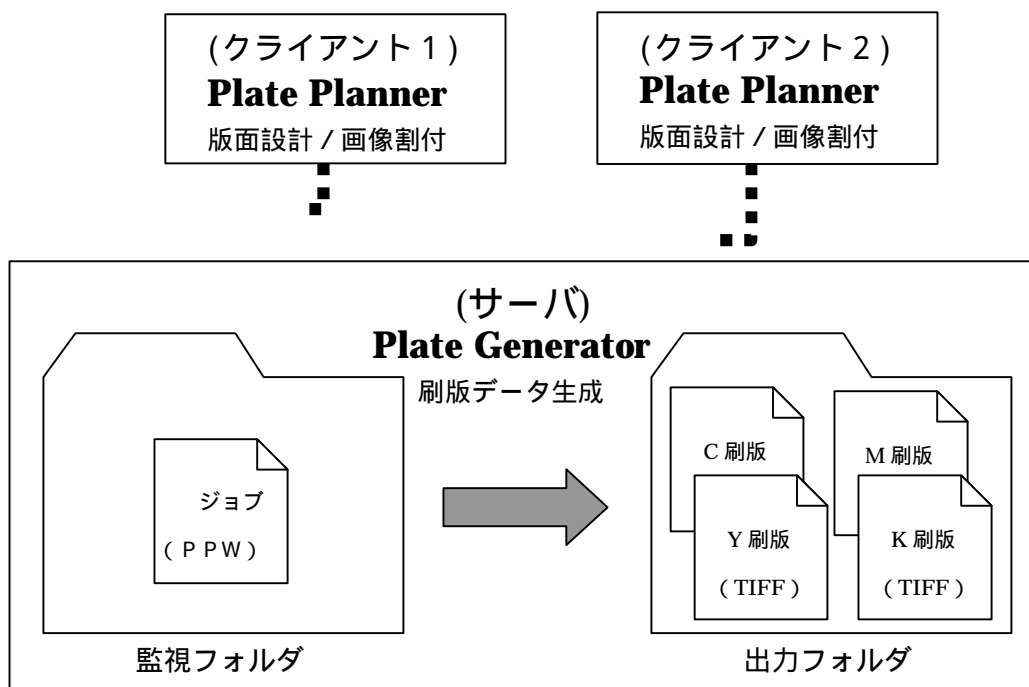
2 - 1 . Plate Generator について

PlateGenerator は、刷版製作の指示情報であるジョブファイル（版面設計や画像割り付け情報を含みます）から、表裏の各色刷版データ（1BitTiff 画像）をバッチ処理で生成します。

PlateGenerator が受け取ることのできるジョブファイルには、PlatePlanner で作成した P P W 作業ファイルの他、**Facilis J-Plate** で書き出した PJTF ファイルがあります。

Facilis J-palte で書き出した PJTF の対応は、PlateGeneratorVer1.30 以降のオプション機能となります。

PlateGenerator は、指定のフォルダ（監視フォルダ）を一定間隔で監視し、ジョブファイルが投げ込まれると、自動的に処理を実行し、指定のフォルダ（出力フォルダ）に刷版データファイルを作成します。したがって、複数のクライアントマシンで PlatePlanner を使用して刷版の版面設計と画像割り付け作業だけを行い、刷版データの作成はサーバマシン上の PlateGenerator に一括して処理をさせるといった効率的な運用が可能になります。



2 - 2 . フォルダセット

フォルダセットとは、ジョブを監視するフォルダの指定をはじめ、生成した刷版データの出力フォルダの指定や、刷版の回転指定など、本プログラムが監視フォルダ内に投げ込まれたジョブを実行するのに必要な一連の設定情報です。

本プログラムでは、複数のフォルダセットを作成することが可能です。例えば、複数台所有している CTP 出力機ごとに生成した刷版データの出力フォルダを分けたい場合には、2 個のフォルダセットが必要になります。1 個目のフォルダセットで指定されている監視フォルダに投げ込まれたジョブから生成される刷版データは 1 個目のフォルダセットで指定されている出力フォルダに、そして、2 個目のフォルダセットで指定されている監視フォルダに投げ込まれたジョブから生成される刷版データは 2 個目のフォルダセットで指定されている出力フォルダにといったふうになります。この場合、プログラムは、複数のフォルダを監視し、それらに投げ込まれたジョブを順番に実行することになります。

尚、本プログラムの出荷時には、フォルダセットは存在しません。したがって、本プログラムでジョブを監視し、刷版生成処理を実行するためには、まず最初に適切なフォルダセットを作成しなければなりません。

2 - 3 . PPW より優先される設定情報

フォルダセットには、PlatePlanner で設定を行い PPW 内に保存されたものと重複する設定情報があります。

PlateGenerator では、次の重複する設定情報については、フォルダセットで指定した設定が優先されます。

生成した刷版データを 1BitTiff ファイルに書き出す際の出力先フォルダとファイル名称

生成した刷版データを 1BitTiff ファイルに書き出す際の圧縮形式

生成した刷版データを 1BitTiff ファイルに書き出す際の回転指定

生成した刷版データを 1BitTiff ファイルに書き出す際のネガ / ポジ指定

2 - 4 . 原稿画像やアクセサリ画像の場所について

PlatePlanner で作成された P P W では割り付けられた原稿画像やアクセサリ画像の場所をパスで記憶していますが、それらのパスが PlatePlanner が動作しているローカルなマシン内のものである場合には PlateGenerator は原稿やアクセサリ画像を見つけることができません。また、PlatePlanner で割り付けた画像が他の場所に移動されている場合も同様です。このような場合のために、PlateGenerator では、PPW 内で設定されている場所を無視し、原稿や画像のフォルダを新たに指定させるための設定が用意されています。

2 - 5 . 生成した刷版データファイルの名称について

PlateGenerator で生成された刷版データファイルの名称は、次のような規則で決定されます。

(尚、Version1.10 以前の仕様から変更されていることにご注意ください)

PPW ベース名 + アンダースコア文字 + プレート番号 + アンダースコア文字 + 面識別文字列 + アンダースコア文字 + 色参照名 + TIFF 拡張子

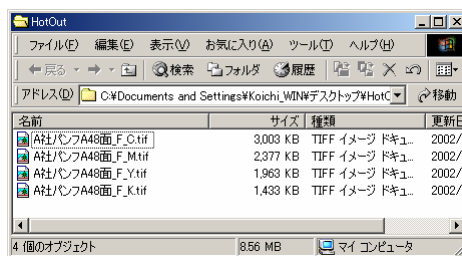
PPW ベース名は、PPW ファイルの拡張子 (.PPW) を除く部分です。

アンダースコア文字は、「_」です。

面識別文字列は、表面の場合に「F」、裏面の場合に「B」になります。

色参照名は、PlatePlanner で設定されたものです。

TIFF 拡張子は、「.tif」です。



2 - 6 . 取り扱うファイル

ジョブファイル (拡張子 : .ppw)

監視、および実行の対象となるファイルで、PlatePlanner で作成したものです。

刷版データファイル (拡張子 : .tif)

PlateGenerator が生成する刷版データファイルです。

設定ファイル (HfProperty_PG.def)

作成したフォルダセットの内容を保存するファイルです。PlateGenerator のプログラムファイルと同じフォルダに作成されます。

HTML ログファイル (PlateGenerator.html)

クライアントマシンで WWW ブラウザ (InternetExplorer、 Netscape など) を使用して、本プログラムの稼働状況を監視するためのもので、詳しくは、「HTML ログファイル」をご覧ください。

実行ログファイル (日付 + PlateGeneratorLog.txt)

実行ログファイルは、日付ごとのジョブの完全な実行記録をテキストファイルで書き出したもので、詳しくは、「実行ログファイル」をご覧ください。

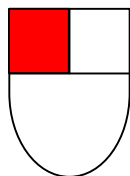
3.Windows 基本操作

3 - 1 . マウスの操作

マウスはコンピュータに指示を与えるための装置です。マウスには右ボタンと左ボタンがあります。マウスの操作には、クリック（左クリックともいいます）、右クリック、ダブルクリック、ドラッグの4種類があります。

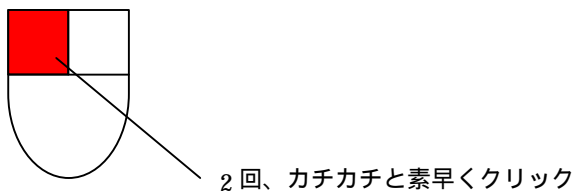
『クリック』

マウスのボタンを1回押してすぐに離すことを、「クリック」といいます。クリックはメニューやボタンを選んだりするときに使います。



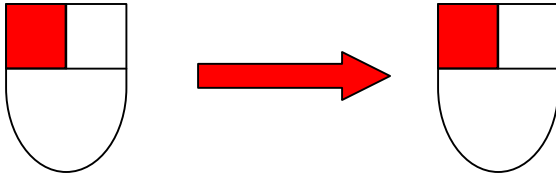
『ダブルクリック』

左ボタンをすばやく2回押すことを「ダブルクリック」といいます。ダブルクリックはアプリケーションソフトを起動するときなどに使います。



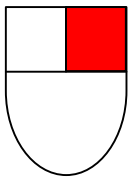
『ドラッグ』

マウスの左ボタンを押したままマウスを動かすことを「ドラッグ」といいます。また、目的の場所までマウスをドラッグした後、マウスのボタンを離すことを「ドロップ」といいます。ドラッグはアイコンやウィンドウの移動や、操作の範囲の選択などに使います。



『右クリック』

マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。右クリックは主にメニューを表示させます。

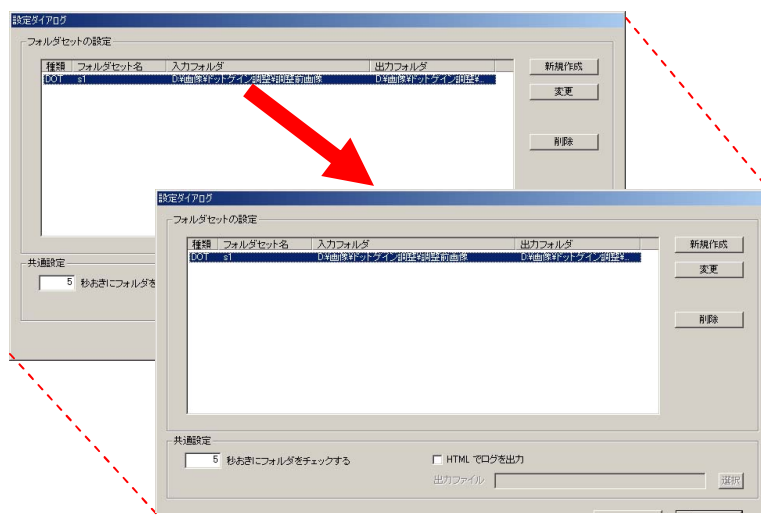


3 - 2 . ウィンドウ操作

ウィンドウは作業を行なう仕事場のようなものです。アプリケーションを起動させるとそのアプリケーションのウィンドウが開かれ、作業ができるようになります。ウィンドウは同時にいくつも開くことができるので、複数の作業を同時進行で行なうことができます。

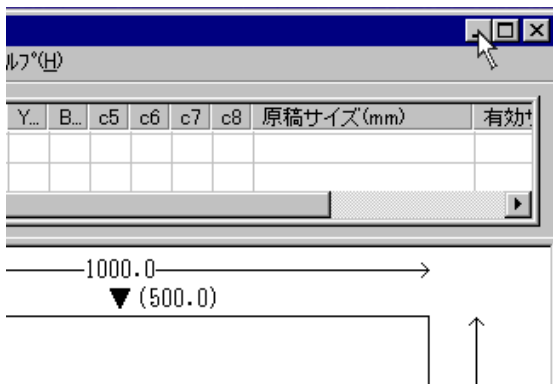
『ウィンドウを移動する』

ウィンドウを移動するときには、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。移動させたい位置まできたら、マウスのボタンを離します。ウィンドウを移動させても、ウィンドウの大きさは変わりません。



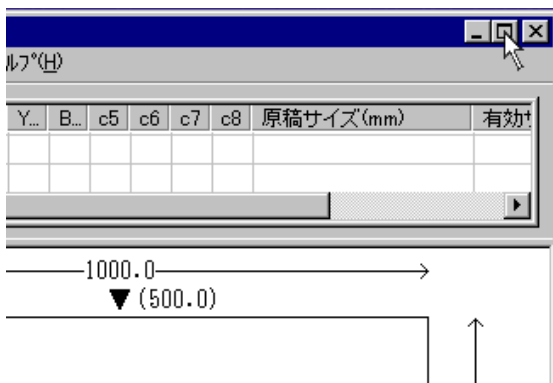
『ウィンドウを最小化する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、左端のボタンをクリックします。すると、ウィンドウはタスクバーに格納され見えなくなります。タスクバーに格納されたウィンドウのボタンをクリックするとふたたび現れます。



『ウィンドウのサイズを変更する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、真ん中のボタンをクリックすると、ウィンドウは画面いっぱいに表示されます。もう一度クリックすると元の大きさに戻ります。またすでに画面いっぱいに表示されている場合、このボタンは元のサイズに戻すボタンになります。



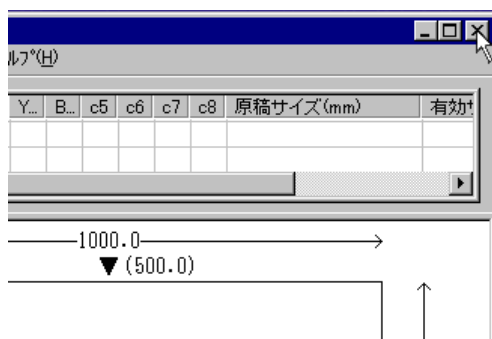
『ウィンドウを好きな大きさに変更する』

ウィンドウの枠の部分にマウスのポインタをあわせると、マウスポインタの形が変化します。この時にマウスをドラッグすると、ウィンドウの大きさが変わります。好きな大きさになったところで、マウスのボタンを離してください。



『アプリケーションソフトを終了する』

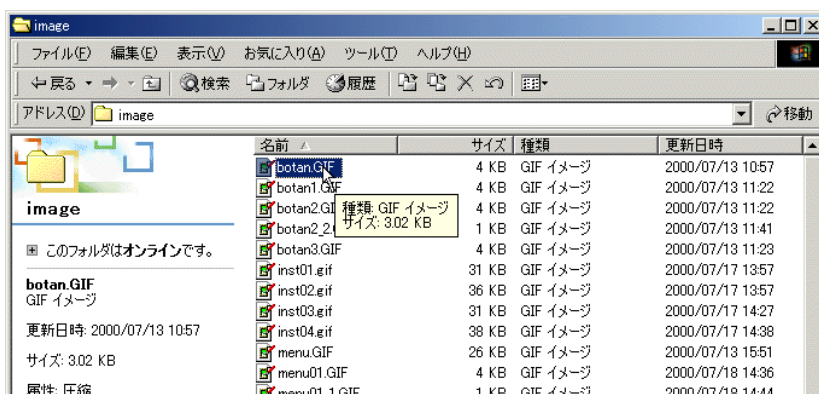
タイトルバーの右端に配置されてるボタンの右側のボタンをクリックします。ウィンドウは消え、アプリケーションは終了したことになります。



3 - 3 . リスト操作

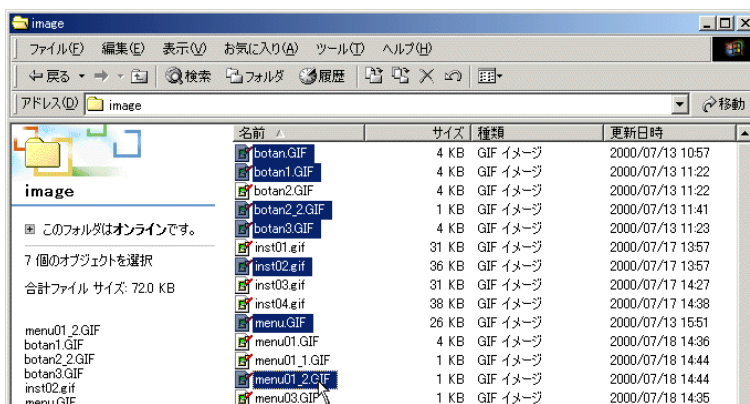
『リストの選択』

リストの一覧のウィンドウで選択したいファイルまたは項目にカーソルを合わせてクリックします。選択した項目の色が変われば、その項目を選択したことになります。



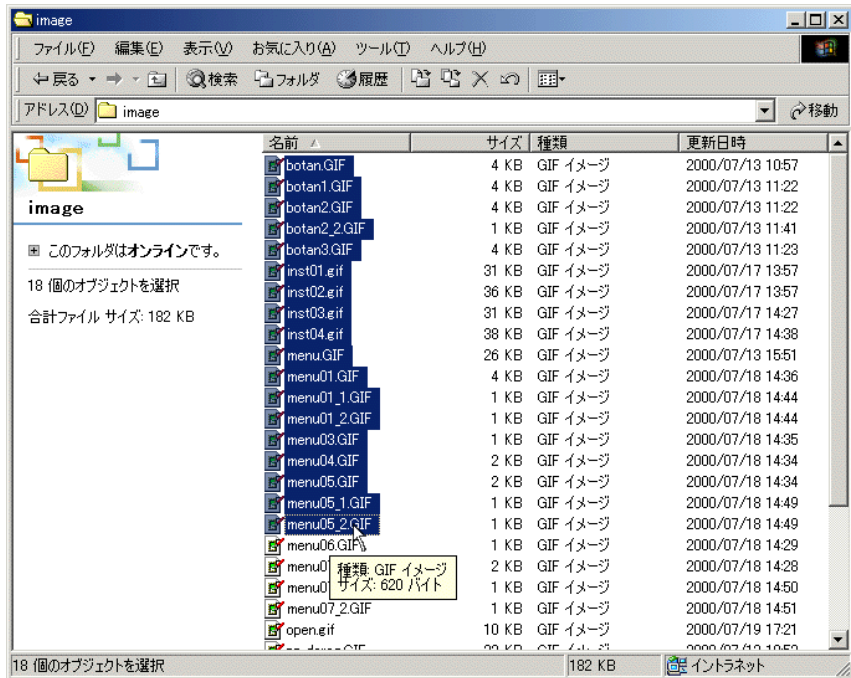
『リストの複数選択』

キーボードの Ctrl キーを押しながらリストを選択すると、複数のファイルまたは項目を選択することができます。



『リストの一括選択』

Shift キーを押しながら、ファイルまたは項目を選択すると、最初に選択されたファイルから、今、選択されたファイルまで一括で選択できます。最初に選択を行っていないときは、リストの最初からの選択になります。



『すべてのリストを選択』

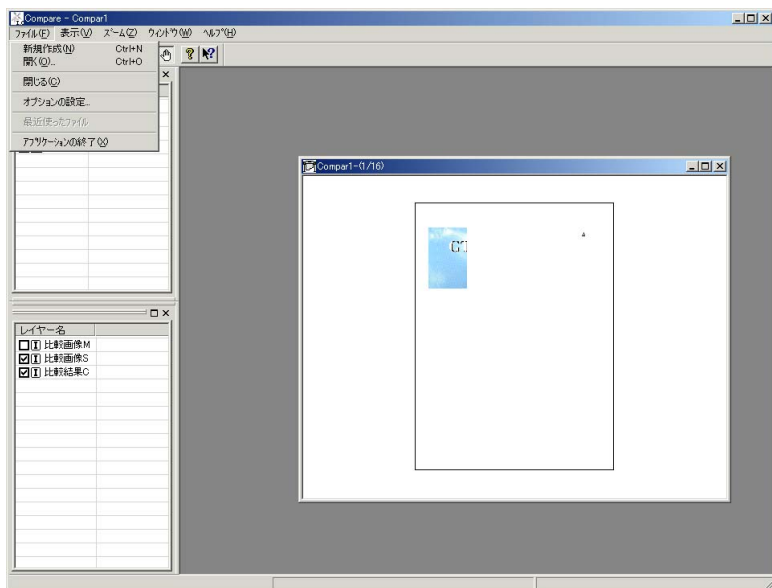
メニューバーの「編集」-「すべてを選択」を選択するとすべての項目を選択することができます。Ctrl キーと「A」を同時に押しても同等の効果が得られます。

3 - 4 . メニュー操作

タイトルバーの下の「ファイル」、「編集」などの項目一覧を「メニュー」と呼びます。右クリックなどでもメニューの選択は可能です。メニューバーには選択できうる全てのメニューがあります。

『メニューの選択』

行なう作業項目をクリックすると、その項目のさらに細かな作業のメニューが降りてきます。降りてきたメニューの作業項目をクリックするだけです。



第二章

PlateGenerator の操作

基本画面

フォルダセットの編集

ジョブをバッチ実行する

プログラムの終了

HTML ログ

実行ログ

エラー情報

運用上のご注意

単一ジョブの実行

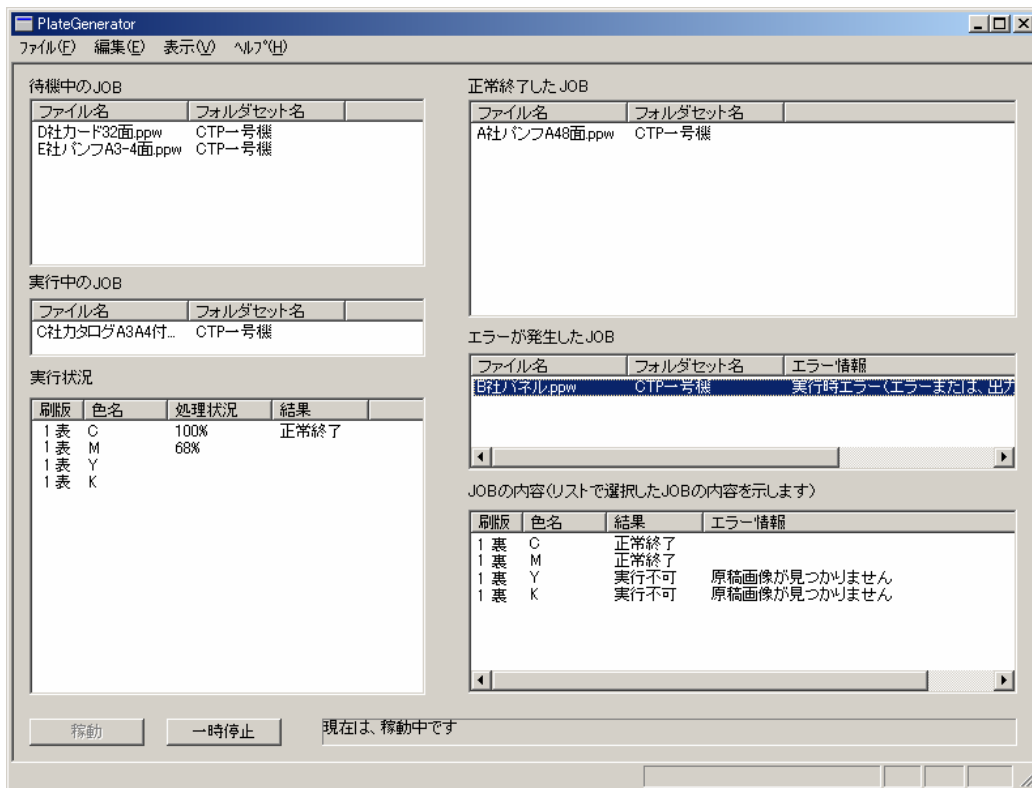
1. 基本画面

ここでは、PlateGenerator を起動すると表示される基本画面について、説明を行います。

基本画面では、現在の処理状況が確認できる他、メニューコマンドやボタンコマンドの実行指示が行えます。

以下に、自動刷版データ生成処理が稼働中の基本画面の例を用いて、表示内容やボタンの説明を行います。

「稼働時の基本画面」



待機中のJOB

監視機能によって認識されたジョブ（監視フォルダ内のジョブファイル）の内、まだ処理が実行されていない未処理のジョブをリスト形式で表示します。リストの最上行にあるものが次に実行されるジョブとなります。

「待機中の P P W」に表示されるジョブは、実行される順番において最大で 5 0 番目までのものしか表示されません。本リストに表示されていない監視フォルダ内のジョブも、いずれは(5 0 番目のジョブになったときに) 表示され、実行されることとなります。

実行中の J O B

現在、自動刷版生成処理が実行中であるジョブを表示します。

実行状況

現在、実行中のジョブのさらに詳細な実行状況を表示します。実行中のジョブが生成する色版情報と、それらの出力状況をリスト形式で表示します。

正常終了した J O B

実行が終了したジョブの内、すべての生成すべき刷版が正常に出力できたジョブをリスト形式で表示します。

「正常終了した J O B」に表示されるジョブは、実行された順番において最近の 5 0 番目までのものしか表示されません。5 0 番目を超えるジョブは、本リストから削除されます。

エラーが発生した J O B

実行が終了したジョブの内、エラーが発生したジョブをリスト形式で表示します。複数の出力すべき色版を持つジョブでは、1 版でもエラーが発生すると、本リストに表示されることとなります。

「エラーが発生した J O B」に表示されるジョブは、実行された順番において最近の 5 0 番目までのものしか表示されません。5 0 番目を超えるジョブは、本リストから削除されます。

J O B の内容 (リストで選択した J O B の内容)

「待機中の J O B」、「正常終了した J O B」、「エラーが発生した J O B」の各リストで選択したジョブの内容を示します。

「待機中の J O B」、「正常終了した J O B」のリストでジョブを選択した場合には、そのジョブに含まれる刷版の種類が表示されます。「エラーが発生した J O B」のリストでジョブを選択した場合には、さらに、刷版ごとの出力結果やエラー情報が表示されます。

稼働ボタン

本プログラムが停止状態の場合に、稼働状態にします。稼働状態にすると、ジョブの監視と処理の実行が行われます。すでに、本プログラムが稼働状態のとき、本ボタンは灰色で表示されます。

一時停止ボタン

本プログラムが稼働状態の場合に、一時的に停止状態にします。停止状態にすると、ジョブの監視や新たな処理の実行は行われません。停止状態のときに、再び、「稼働ボタン」をクリックするジョブの実行が再開されます。すでに、本プログラムが停止状態のとき、本ボタンは灰色で表示されます。

実行中のジョブがあるときに、「一時停止」をクリックすると、ジョブの監視は即座に停止されますが、そのときに出力中の刷版は処理が終了するまで停止されません。

2 . フォルダセットの編集

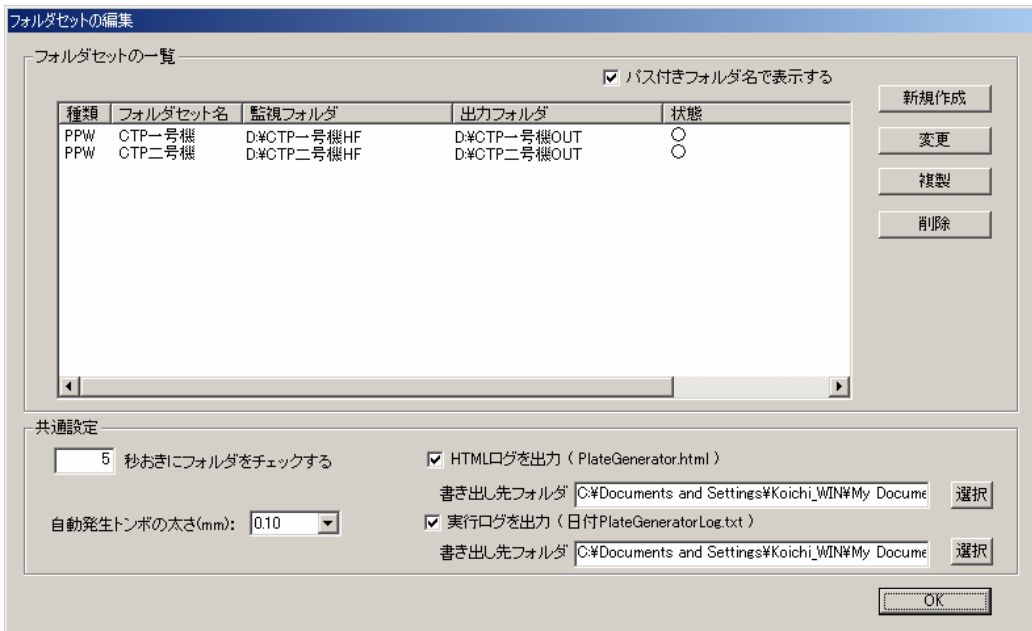
フォルダセットとは、ジョブ（PPWファイルなど）を監視するフォルダの指定をはじめ、生成した刷版データの出力フォルダの指定や、刷版の回転指定など、本プログラムが監視フォルダ内に投げ込まれたジョブを実行するのに必要な一連の設定情報です。

尚、本プログラムの出荷時には、フォルダセットは存在しません。したがって、PlateGeneratorでジョブを監視し、刷版生成処理を実行するためには、まず最初に適切なフォルダセットを作成しなければなりません。

2 - 1 . フォルダセット編集ダイアログ

「ファイル」メニューから「フォルダセットの編集」コマンドを選ぶと、「フォルダセットの編集ダイアログ」が表示されます。「フォルダセットの編集ダイアログ」では、新規のフォルダセット作成や、既存フォルダセットの変更、削除の他、すべてのフォルダセットに共通の設定が行えます。

「フォルダセット編集ダイアログ」



【フォルダセットの一覧】

フォルダセットリスト

作成済みのフォルダセットの名称と基本設定情報がリスト形式で表示します。状態が×の場合には、監視が行われません。

パス付きフォルダ名で表示する

この項目をチェックすると、フォルダセットリストで各種フォルダ名をパス付きで表示します。

新規作成ボタン

新しいフォルダセットを作成するために、「新規ジョブダイアログ」を表示させます。

変更ボタン

一覧で選択されているフォルダセットを変更するために、「フォルダセットの基本設定ダイアログ」を表示させます。

複製ボタン

一覧で選択されているフォルダセットの複製を作成します。

削除ボタン

一覧で選択されているフォルダセットを削除します。

【共通設定】

すべてのフォルダセットに共通の設定を行います。

秒おきにフォルダをチェックする

監視フォルダをチェックする間隔を指定します。

自動発生トンボの太さ

自動発生トンボの処理が行われる場合のトンボの太さをmmで指定します。トンボの自動発生機能の設定は、PlatePlannerで行います。

HTMLログを出力(チェックボックス)

この項目をチェックした場合、クライアントマシンで本プログラムの稼動状況を監視するためのHTMLログを書き出します。詳しい解説は、「HTMLログファイル」をご覧ください。

(HTMLログ)書き出し先フォルダ

「HTMLログを出力」をチェックした場合に、書き出し先のフォルダを指定します。

実行ログを出力(チェックボックス)

ジョブの実行結果を日付ごとに記録する実行ログをテキストファイルで書き出します。詳しい解説は、「実行ログファイル」をご覧ください。

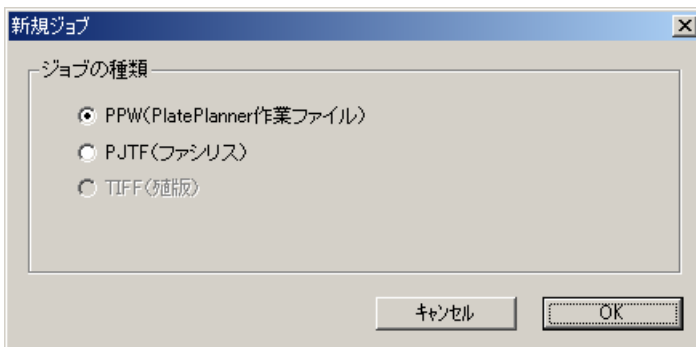
(実行ログ)書き出し先フォルダ

「実行ログを出力」をチェックした場合に、書き出し先のフォルダを指定します。

2 - 2 . 新規ジョブダイアログ

「フォルダセットの編集ダイアログ」で、「新規ボタン」をクリックすると、「新規ジョブダイアログ」が表示されます。

ここでは、ジョブの種類を選択します。「OKボタン」をクリックすると、「フォルダセットの設定ダイアログ」に移ります。尚、P I T F オプション機能付き PlateGenerator をご購入の場合に限り、「P J T F」ジョブを選択することができます。



2 - 3 . フォルダセットの基本設定ダイアログ

「フォルダセットの編集ダイアログ」で「変更ボタン」をクリックするか、「新規ジョブダイアログ」で「OKボタン」をクリックすると、「フォルダセットの基本設定ダイアログ」が表示されます。

「フォルダセットの基本設定ダイアログ」

フォルダセットの基本設定

JOBのタイプ: PPW(PlatePlanner作業ファイル)

セット名: CTP一号機

JOB監視フォルダ: D:\CTP一号機HF 選択

刷版出力の設定

出力フォルダ: D:\CTP一号機OUT 選択

圧縮: G4(MMR) ▼ 出力タイプ: ポジ ネガ

回転: なし ▼

処理済JOB

監視フォルダから指定フォルダに移動する

移動先フォルダ: D:\出力済みPPW 選択

削除する

キャンセル 詳細設定へ

JOBのタイプ

本フォルダセットが対象としているジョブの種類を示し。

セット名

フォルダセットを識別するための名称です。CTPや印刷機などの出力機を反映させておくると便利です。

JOB 監視フォルダ

監視の対象となるフォルダの場所を指定します。ここで指定したフォルダにジョブファイルが投げ込まれると、本プログラムは刷版データ生成処理を実行します

【刷版出力の設定】

生成した刷版データを 1BitTIFF ファイルとしてディスクに書き出す際の設定を行います。

出力フォルダ

生成した刷版データをファイルとしてディスクに書き出す場所を指定します。本プログラムでは、PPW 内で設定されている出力フォルダを無視します。

圧縮

生成した刷版データを 1BitTIFF ファイルとして書き出す際の圧縮形式を指定します。本プログラムでは、PPW 内で設定されている圧縮形式を無視します。

回転

生成した刷版データを 1BitTIFF ファイルとして書き出す際の回転の指定をします。本プログラムでは、PPW 内で設定されている回転の指定を無視します。

出力タイプ

生成した刷版データを 1BitTIFF ファイルとして書き出す際に、「ポジ」か「ネガ」かを指定します。本プログラムでは、PPW 内で設定されている出力タイプを無視します。

【処理済 JOB】

処理済のジョブファイルの扱いについての設定を行います。

監視フォルダから指定フォルダに移動する（ラジオボタン）

この項目を選択した場合、処理済のジョブファイルは監視フォルダから次の「移動先」で設定された場所（フォルダ）に移動されます。

移動先

前記の「監視フォルダから指定のフォルダに移動する」が選択されている場合に、移動先の場所(フォルダ)を指定します。

削除する

この項目を選択した場合、処理済のジョブファイルは監視フォルダから削除されます。

詳細設定へ

クリックすると、ジョブの種類に応じた「ジョブの詳細設定ダイアログ」を表示させます。

2 - 4 . ジョブの詳細設定ダイアログ

「フォルダセットの基本設定ダイアログ」で「詳細設定へボタン」をクリックすると、ジョブの種類に応じた「ジョブの詳細設定ダイアログ」が表示されます。

「PPWジョブの詳細設定ダイアログ」

PPWジョブの詳細設定

原稿、アクセサリの場所

PPW 内部の設定値を使用する

原稿フォルダ: 選択

アクセサリフォルダ: 選択

全ての刷版を出力する

基本設定に戻る キャンセル OK

【原稿、アクセサリの場所】

刷版データ生成時に、原稿画像やアクセサリ画像を探す場所の設定を行います。

PPW内部の設定値を使用する(チェックボックス)

この項目にチェックを付けると、割り付けられた原稿画像やアクセサリ画像をPPW内部で設定されている場所(フォルダ)から探します。PPW内部の設定値を無視し、新たに原稿画像やアクセサリ画像の場所を指定する場合には、チェックを外します。

原稿フォルダ

前記の「PPW内部の設定値を使用する」のチェックが外されている場合に、原稿画像の場所(フォルダ)を指定します。

アクセサリフォルダ

前記の「PPW内部の設定値を使用する」のチェックが外されている場合に、アクセサリ画像の場所(フォルダ)を指定します。

全ての刷版を出力する

複数プレートの割り付け情報を持つPPWの場合に、チェックを付けると、含まれる全ての刷版を合成出力します。チェックを外した場合には、先頭のプレート情報のみが処理の対象となります。

基本設定へ戻る

クリックすると、「フォルダセットの基本設定ダイアログ」に戻ります。

OK

クリックすると、設定内容を保存し、「フォルダセットの編集ダイアログ」に戻ります。

3 . P P W-ジョブをバッチ実行する

ここでは、本プログラムのインストール後、P P W-ジョブを一括して実行させるまでの一連の手順について説明を行います。

1) PlatePlanner で刷版の版面設計と画像の割り付けを行い、PPW を保存します。

2) PlateGenerator を起動して、フォルダセットを作成します。

3) 「基本画面」の「稼動ボタン」をクリックして、稼動状態にします。

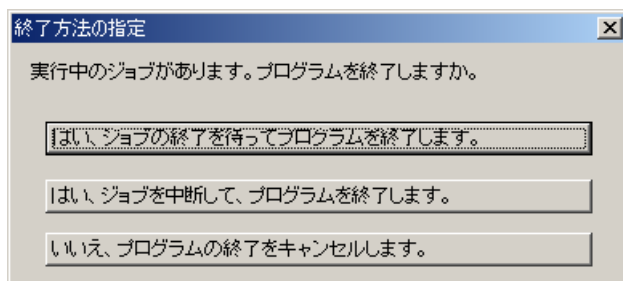
4) Windows エクスプローラで、PPW を監視フォルダにコピー（または移動）します。

数秒後、監視フォルダ内のジョブ（PPW）の実行が始まります。

4 . プログラムの終了

プログラムを終了するには、「ファイル」メニューの「アプリケーションの終了」を選びます。この時、実行中のジョブがある場合には（基本画面の「実行中のPPW」が空白でない場合を意味し、一旦実行されたものの「一時停止ボタン」で停止状態にあるジョブを含みます）、次の「終了方法の指定ダイアログ」が表示されます。

「終了方法の指定ダイアログ」



「終了方法の指定ダイアログ」では、次のいずれかの終了方法を指定します。

「はい、ジョブの終了を待ってプログラムを終了します」ボタン

このボタンをクリックした場合、実行中のジョブのすべての刷版データの生成が終了後、プログラムを終了します。

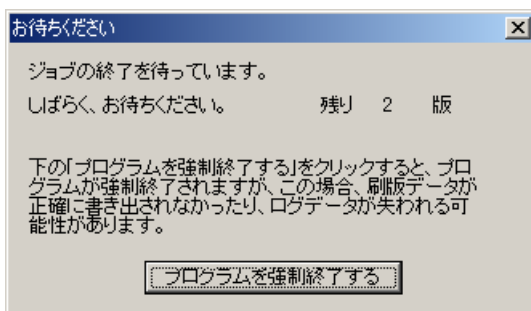
「はい、ジョブを中断して、プログラムを終了します」ボタン

このボタンをクリックした場合、実行中のジョブの現在処理中である刷版データの生成が終了後、プログラムを終了します。例えば、実行中のジョブに4版分の生成すべき刷版データがあり、1番目の刷版データが生成中のとき、残りの3版は処理されません。

「いいえ、プログラムの終了をキャンセルします」ボタン

このボタンをクリックした場合、プログラムの終了そのものを取り消して、基本画面に戻ります。

「終了方法の指定ダイアログ」で、「はい、...」を選んだ場合には、さらに次のダイアログが表示されることがあります。



このダイアログは、プログラムが「終了方法の指定ダイアログ」で指定された終了条件を待っている間表示されるものです。したがって、このダイアログが表示されている間は、何も操作せずにお待ちください。終了条件が満たされた時点で、自動的に消滅し、プログラムを終了します。

どうしても、すぐに終了したい場合や、何らかの原因でいつまで待ってもプログラムが終了しない場合には、「プログラムを強制終了する」をクリックします。ただし、この場合には、プログラムが中途半端な状態で終了されることになり、処理中であった刷版データや、ログデータの書き出しが正確に行われないことに注意してください。

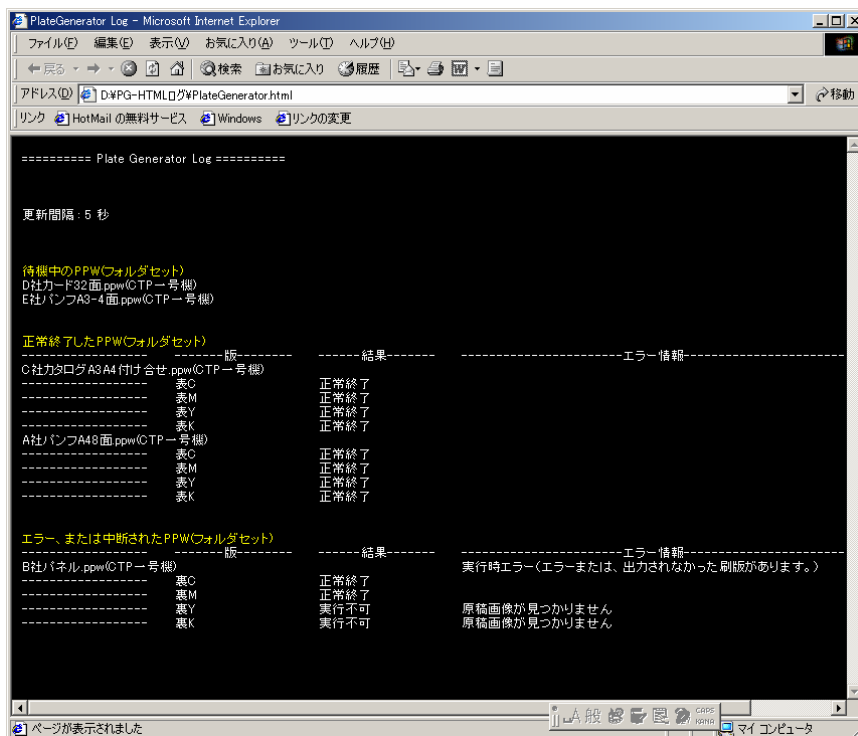
5 . HTML ログファイル

HTML ログファイル (PlateGenerator.html) は、クライアントマシンで WWW ブラウザ (Internet Explorer、Netscape など) を使用して、本プログラムの稼動状況を監視するためのものです。

HTML ログファイルを書き出すには、「フォルダセットの編集ダイアログ」で「HTML ログを出力」をチェックし、「書き出し先フォルダ」に適切なフォルダを指定してください。(クライアントマシンから HTML ログを見るためには共有されたフォルダを指定します)

書き出された HTML ログファイルを使用して、クライアントマシンでプログラムの稼動状況を監視するには、WWW ブラウザで「PlateGenerator.html」を開きます。

「WWW ブラウザでの監視表示」



監視表示は、一定の時間間隔で更新されます。

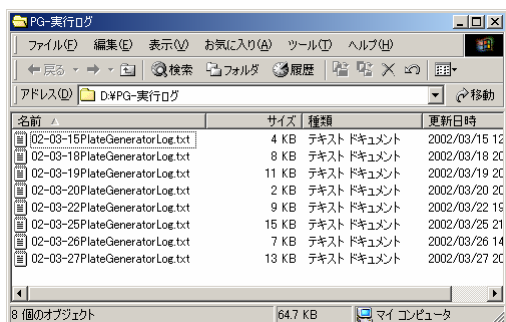
HTML ログに書き出されるジョブは、正常終了したジョブ、エラーが発生したジョブの内、それぞれ最近の50番目までのものに限られます。

6 . 実行ログファイル

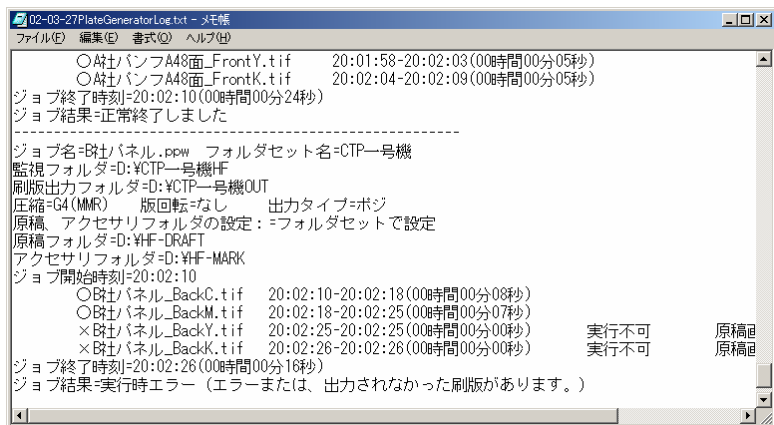
実行ログファイルは、日付ごとのジョブの完全な実行記録をテキストファイルで書き出したものです。

実行ログファイルを書き出すには、「フォルダセットの編集ダイアログ」で「実行ログを出力」をチェックし、「書き出し先フォルダ」に適切なフォルダを指定してください。

書き出された実行ログのファイル名称には、日付が反映されています。



実行ログを確認するには、テキストエディタ（メモ帳やワードパッドなど）で開いてください。



7 . エラー情報

ここでは各種画面で表示されるエラー情報について説明を行います。（ログファイルでも同様のエラー情報が書き出されます）

7 - 1 . ジョブ全体のエラー情報

ここでは、基本画面の「エラーが発生した JOB のリスト」での「エラー情報」に表示されるものについて説明を行います。

「処理すべき刷版がありません」

投げ込まれたジョブに、生成すべき刷版がないことを意味します。PPW に原稿やアクセサリの画像が割り付けられていない状態が考えられます。PlatePlanner で PPW を確認してください。

「不適切なジョブです」

PlatePlanner で作成された PPW でないか、ファイルが壊れているか、対応できないバージョンの PPW の場合に表示されます。

「原稿フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定した原稿フォルダが見つからないことを意味します。

「アクセサリフォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定したアクセサリフォルダが見つからないことを意味します。

「監視フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている監視フォルダが何らかの原因で見つけられなかったことを意味します。

「移動フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている処理済みジョブファイルの移動フォルダが何らかの原因で見つけられなかったことを意味します。

「出力フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている刷版データの出力フォルダが何らかの原因で見つけられなかったことを意味します。

「実行時エラー（エラーまたは、出力されなかった刷版があります）」

何らかの原因で、刷版データ生成処理時にエラーが発生し、出力されなかった刷版がひとつでもあった場合に表示されます。この場合の詳しいエラー情報は、次の「刷版データ処理時のエラー情報」をご覧ください。

7 - 2 . 刷版データ処理時のエラー情報

ここでは、基本画面の「ジョブの内容」の「エラー情報」に表示されるものについて説明を行います。基本画面の「エラーが発生したジョブのリスト」の「エラー情報」が「実行時エラー（エラーまたは、出力されなかった刷版があります）」の場合に、そのジョブをリストで選択することにより、刷版ごとのエラー情報が表示されます。

「TIFF 画像の解像度が一致していません」

PPW 内で割り付けられた原稿やアクセサリ画像の解像度と PPW で設定されている解像度が一致していないことを意味します。

「対応できない TIFF 画像フォーマットです」

PPW 内で割り付けられた原稿やアクセサリ画像の TIFF フォーマットが解釈できなかったことを意味します。

「原稿画像が見つかりません」

PPW 内で割り付けられた原稿画像が見つけれなかったことを意味します。

「アクセサリ画像が見つかりません」

PPW 内で割り付けられたアクセサリ画像が見つけれなかったことを意味します。

「空きディスク容量が足りません」

出力フォルダの空きディスク容量が足りないために処理されなかったことを意味します。

7 - 3 . フォルダセットのエラー情報

ここでは、「フォルダセット編集ダイアログ」で表示されるエラー情報について説明を行います。フォルダセットで設定された各種フォルダが見つけれられないなどのエラーが発生した場合には、「フォルダセット編集ダイアログ内リスト」の状態項目に×が表示されるとともに次のようなエラーメッセージが表示されます。

「監視フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている監視フォルダが何らかの原因で見つけれなかったことを意味します。

「移動フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている処理済みジョブファイルの移動フォルダが何らかの原因で見つけれなかったことを意味します。

「出力フォルダが見つかりません」

フォルダセットで設定されている刷版データの出力フォルダが何らかの原因で見つけれなかったことを意味します。

8 . 運用上のご注意

ここでは、現バージョンにおける運用上の注意事項について説明を行います。

PPWファイル名に関して

監視フォルダに投げ込む P P W ファイル名は、一意になるようにしてください。監視フォルダ内で、実行待ちの P P W と同一名の P P W を投げ込むと、上書きされ誤動作の原因となります。また、監視フォルダが異なっても出力フォルダが同一の場合、生成された刷版データは上書きされます。

フォルダセット作成に関して

異なるフォルダセットに同じ監視フォルダを指定しないようにしてください。このような場合、先に作成されたフォルダセットのみが有効となります。

空きディスク容量に関して

刷版データ処理時には、次の計算に基づく空きディスク容量を必要とします。

空き容量 (BYTE) = (刷版サイズ横 × 解像度) ÷ 8 × (刷版サイズ縦 × 解像度) × 2

例えば、刷版サイズが A1 (840mm × 594mm) で、解像度が 2400DPI の場合、約 1062Mbyte になります。

処理対象となる刷版について (P P W ジョブの場合)

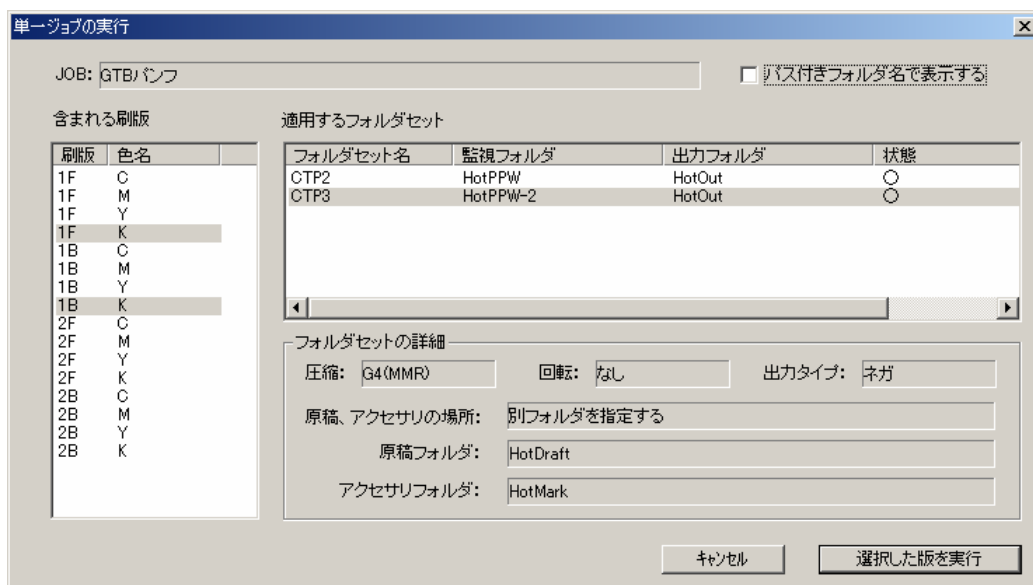
PPW 内で生成の対象となる版は、原稿画像やアクセサリ画像がひとつでも割り付けられている表裏の色版です。尚、PlateGenerator1.10 以前のバージョンでは PPW 内に設計内容の異なる複数の刷版情報がある場合でも 1 プレート目のみを処理の対象としていましたが、PlateGenerator1.32 以降のバージョンでは「JOB の詳細設定ダイアログ」で「全ての刷版を出力する」をチェックすることで、含まれる全ての刷版が処理の対象となります。また、PlateGenerator1.32 以降のバージョンでは、特定のプレートや色だけを選択して実行するための「単一ジョブの実行」コマンドが用意されています。

9 . 単一ジョブの実行 (プレート、色版の選択実行)

フォルダ監視によるジョブの一括処理では、処理の対象となるプレートや色を選択することができません。ここでは、PlateGenerator1.32で追加された「単一ジョブの実行」コマンドを使用して、特定のプレートや色を選択して実行する場合の操作について説明を行います。

尚、プレートや色版を指定する場合は監視フォルダに PPW を入れるのではなく、PPW ジョブを直接指定することになりますが、回転や出力先の指定のためにフォルダセットをあらかじめ用意しておく必要があります。

- 1) 「ファイル」メニューから「単一ジョブを開く」を選びます。
- 2) 「PPW を開くダイアログ」が表示されます。リストで実行の対象となる PPW ジョブを選んで「開く」ボタンをクリックします。
- 3) 「単一ジョブの実行ダイアログ」が表示されます。



含まれる刷版

開いたジョブに含まれる刷版情報がリスト形式で表示されます。このリストで処理の対象となるプレートや色を選択（複数選択可）します。

適用するフォルダセット

PPW用のフォルダセットがリスト形式で表示されます。このリストで、出力先フォルダや回転など適用したい設定を選びます。

フォルダセットの詳細

選択したフォルダセットの詳細な設定情報が表示されます。

4) 左のリストで処理の対象となるプレートや色を選択します（複数選択可）。

5) 右のリストでフォルダセット（出力先のフォルダや回転など、ここで選んだフォルダセットが適用されます）を選びます。

6) 「選択した版を実行」ボタンをクリックすると、基本画面に戻り、指定したジョブが待機中のジョブに追加されます。

「単一ジョブの実行」コマンドでは、指定したジョブが実行される前に（待機キューにあるとき）アプリケーションが終了すると、次回起動時に再実行されません。

10 . 待機中 JOB のコントロール

ここでは、待機中 JOB に対して、実行される順位を変更したり、実行を取りやめる操作について説明します。

10 - 1 . 待機中 JOB の実行順位の変更

- 1) 動作モードが「稼動中」である場合には、「一時停止」ボタンをクリックして、「停止」にします。
- 2) 「待機中の JOB」リストで、実行順位を変更したい JOB を選択します。
- 3) 「待機 JOB」メニューから「実行順位の変更」：「最初に移動」または「最後に移動」を選択します。

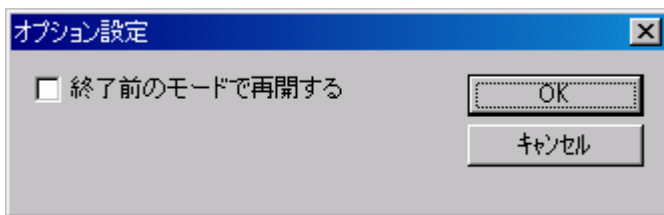
10 - 2 . 待機中 JOB の実行の取りやめ

- 1) 動作モードが「稼動中」である場合には、「一時停止」ボタンをクリックして、「停止」にします。
- 2) 「待機中の JOB」リストで、実行を取りやめたい JOB を選択します。
- 3) 「待機 JOB」メニューから「実行順位の変更」：「実行中止」を選択します。

1 1 . オプション設定

ここでは、v 1 3 6 以降のバージョンで追加されたオプション設定について説明します。

オプション設定を行うには、「ファイル」メニューから「オプションの設定」を選んで、「オプション設定ダイアログを表示させます。



終了前のモードで再開する

起動時の動作モードを前回終了時の動作モードにしたい場合にチェックをつけます。

第三章

PJTF オプション

PJTF オプションについて

シートと刷版の関係について

使用色の判別について

付け合せについて

取り扱うファイル

PJTF - フォルダセットの編集

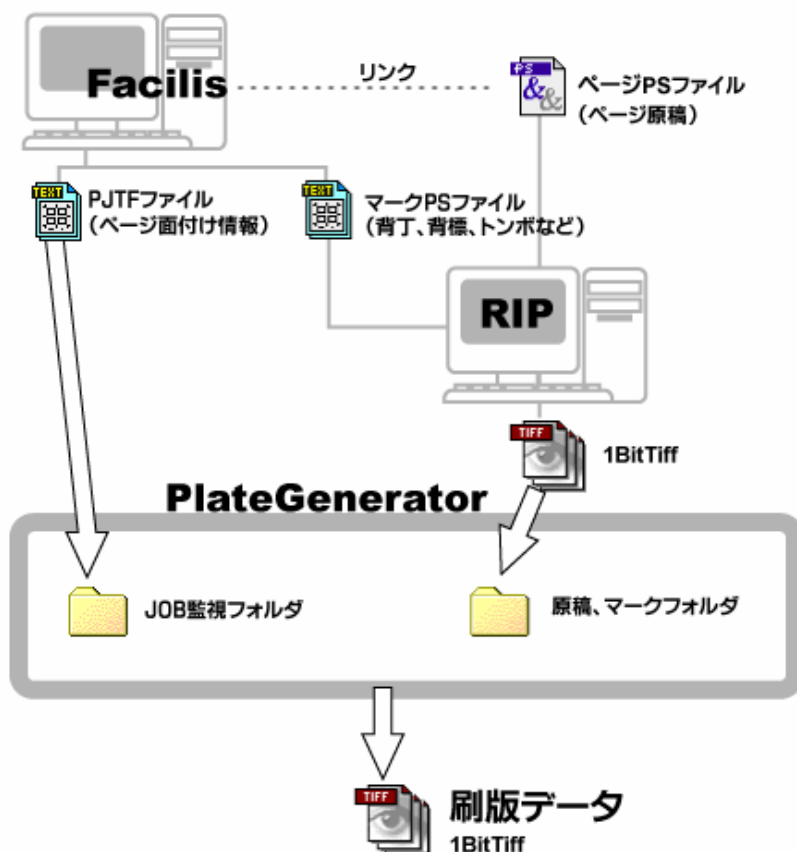
PJTF - ジョブのバッチ実行

エラー情報

本章では、PJTF オプション機能についての説明を行います。ここでの説明は、第一章および第二章をお読みになった上でPlateGenerator についての基本的な理解がなされていることを前提としています。

1 . PJTF オプションについて

PlateGeneratorVersion1.30 で追加されたPJTF オプション機能により、**Facilis J-Plate** で書き出したPJTF ファイル(拡張子が .jt)をジョブとして受け取ることができるようになりました。PJTF による運用では、ページ面付け作業はRIP 前のPS データを用いて行い、最終的な刷版データの生成は印刷直前まで持ち越されることとなります。したがって、ページの差し替えや刷版サイズの変更などに対して、より柔軟なワークフローが構築できます。



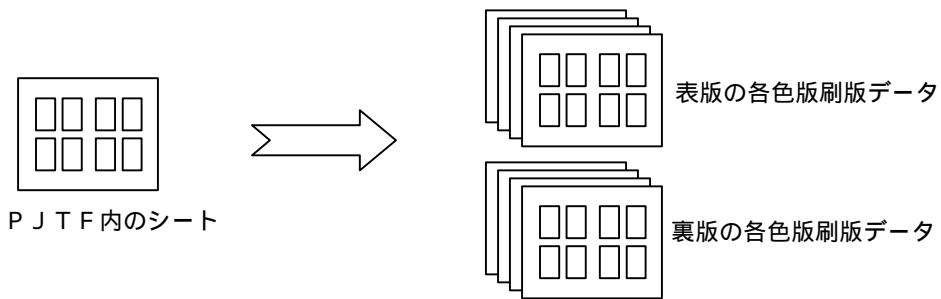
2. シートと刷版の関係について

PJTF 内には、Facilis で面付けされた内容がシートという単位で記述されています。

PlateGenerator では、シートと刷版の関係において、次のような処理方法の選択が行えます。

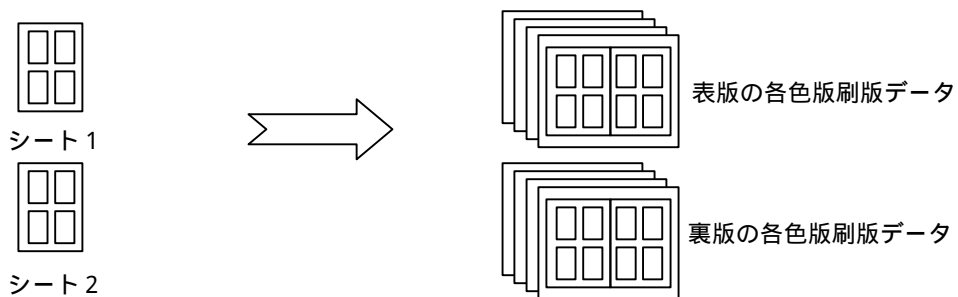
シートを刷版とする

シートと同一サイズの刷版データを生成します。ひとつのシートから表裏各色の刷版データ (1BitTiff) が生成されます。Facilis 側では最終的な刷版を想定した面付け作業を行って、PJTF に書き出します。



シートを付け合せて刷版とする

指定されている刷版テンプレートに基づいて、異なるシートの付け合わせを自動で行います。生成される刷版データのサイズは、刷版テンプレートで指定を行います。この場合、Facilis 側では台の (刷版を想定しない) 面付け作業を行って、PJTF に書き出します。尚、PJTF 内に異なるサイズのシートが混在する場合、まずサイズで分類された後、付け合わせが行われます。



3 . 使用色の判別について

PlateGenerator では、生成する刷版データの色版数（使用色）を RIP 後のマークファイル名から割り出します。このとき、指定された RIP ファイル名規則とカラー定義テーブルを参照します。

3 - 1 . R I P ファイル名規則

PlateGenerator で取り扱える R I P ファイル名規則は次の 2 つです。

頁番号 + ベース名 + 色名 + 履歴番号 + 「.TIF」

頁番号 + ベース名 + 色名 + 「.TIF」

頁番号：

頁番号は、1 から始まる可変長の数字列です。

ベース名：

ベース名は、各色共通部の可変長文字列です。

色名：

色名は、網点画像の色を示す可変長の文字列です。

履歴番号：

履歴番号は、2 桁固定で 00 から始まる数字列です。00 と 01 の網点画像ファイルが存在した場合、PlateGenerator は 01 の画像を優先して使用します。

（履歴番号がある場合の例）

1 カタログ C00.TIF

1 カタログ M00.TIF

1 カタログル Y00.TIF

1 カタログ B00.TIF

(履歴番号がない場合の例)

21 マニュアル CYAN.TIF

21 マニュアル MAGENTA.TIF

21 マニュアル YELLOW.TIF

21 マニュアル BLACK.TIF

3 - 2 . カラー定義テーブル

PlateGenerator では、指定された「R I Pファイル名規則」により、網点画像のファイル名から色名を抜き出して、カラー定義テーブルを検索します。このとき登録されている色であった場合に使用色と判断し、その色の刷版データを生成します。

カラー定義テーブルは、P J T F オプション付随の ColorTableEditor で作成し、PlateGenerator フォルダに保存してください。カラー定義テーブル作成の操作方法については、ColorTableEditor マニュアルを参照してください。

尚、PlateGenerator では、起動時にカラー定義テーブルファイルが見つからない場合、網点画像ファイル名から抜き出した色名が「C」、「M」、「Y」、「K」のものを使用色と見なします。

4 . 付け合せについて

ここでは、シートを付け合せる場合の処理方法について説明します。

4 - 1 . 刷版テンプレート

シートを付け合せる場合には、PlatePlanner で作成した刷版テンプレートが必要となります。刷版テンプレートでは、刷版サイズ、割り付けタイプ(枚葉/オフ輪)、刷版アクセサリなどの指定が行えます。(尚、刷版テンプレート作成の操作方法については、PlatePlanner マニュアルを参照してください)

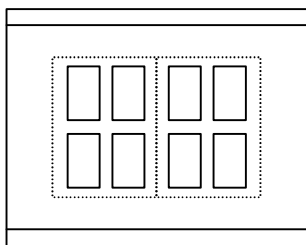
刷版サイズ

付け合せ処理では、テンプレートで設定されている刷版サイズに基づいて可能な限りシートを配置します。

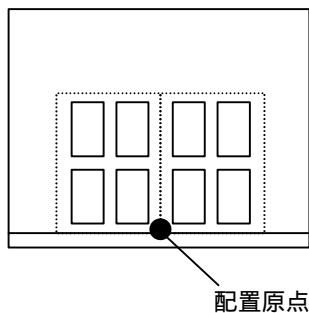
割り付けタイプと配置原点

テンプレートでは、割り付けタイプとして枚葉かオフ輪かを設定できます。さらに、枚葉の場合には配置原点を設定できます。PlateGenerator の付け合せ処理では、割り付けタイプと配置原点に応じてシートの配置位置を調整します。詳しくは、PlatePlanner のマニュアルを参照してください。

【オフ輪の場合】



【枚葉の場合】



刷版アクセサリ

テンプレートに配置された色玉、パッチ、ラベルなどのアクセサリは、付け合せ後の刷版に適用されます。ただし、テンプレートで設定されている（アクセサリの）解像度とマーク画像の解像度が一致していること、および色名が一致していることが条件となります（解像度や色名が一致しないとアクセサリは配置されません）。尚、テンプレートに配置されているアクセサリ画像の検索は、テンプレートで設定されているアクセサリフォルダパスを参照します。

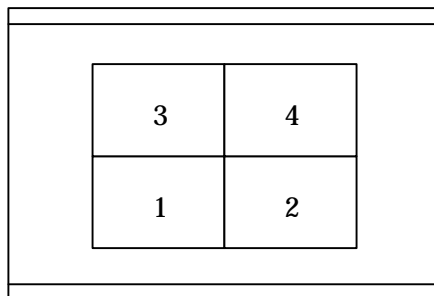
用紙の返し方向

枚葉割り付けの場合、テンプレートで設定する用紙の返し方向は、面付け作業時に Facilis 側で設定した方向に合わせる必要があります。

付け合せ処理においては、テンプレート内に配置されたブロックは使用されません。

4 - 2 . シートの付け合せ順

PlateGenerator では、次に示す順番でシートを付け合せます。



5 . 取り扱うファイル

ここでは、PJTF オプション機能で必要となる各種ファイルについての説明を行います。

ジョブファイル (拡張子: .jt)

監視、および実行の対象となるファイルで、Facilis J-Plate で書き出したものです。

カラー定義テーブルファイル (ColorTable.def)

色名を登録したファイルで、PlateGenerator がシートの使用色をマーク画像のファイル名から判別するときに参照します。ColorTableEditor で作成、変更が行えます。尚、本ファイルは、PlateGenerator.exe と同一のフォルダに格納してください。

刷版テンプレートファイル (拡張子: .ptp)

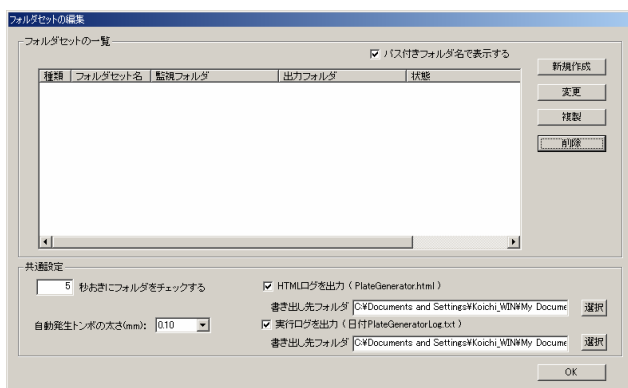
シートを付け合せる場合に必要となるテンプレートファイルです。PlatePlanner で作成、変更が行えます。

6 . P J T F - フォルダセットの編集

6 - 1 . 新しく PJTF 用フォルダセットを作成する

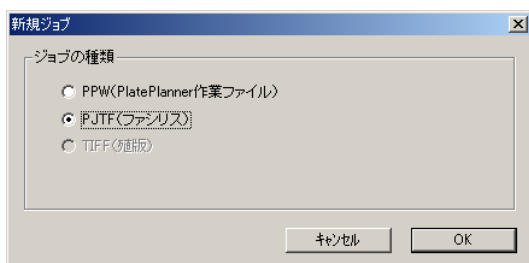
P J T F - ジョブ用のフォルダセットを新規に作成するための操作手順について説明します。

1) 「ファイル」メニューから「フォルダセットの編集」コマンドを選び、「フォルダセット編集ダイアログ」を表示させます。



「フォルダセット編集ダイアログ」については、「第二章 2 - 1 : フォルダセット編集ダイアログ」で説明されています。

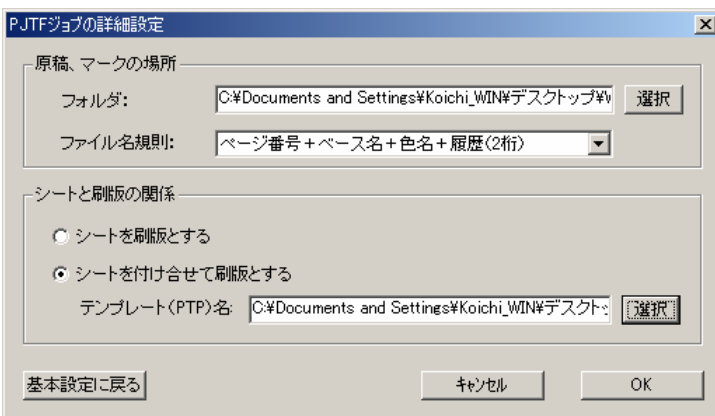
2) 「フォルダセット編集ダイアログ」で「新規ボタン」をクリックして、「新規ジョブダイアログ」を表示させます。



3) 「新規ジョブダイアログ」でPJT F (ファシリス) を選択して、「OK ボタン」をクリックし、「フォルダセットの基本設定ダイアログ」を表示させます。

「フォルダセットの基本設定ダイアログ」での設定内容については、「第二章 2 - 3 : フォルダセットの基本設定」で説明されています。

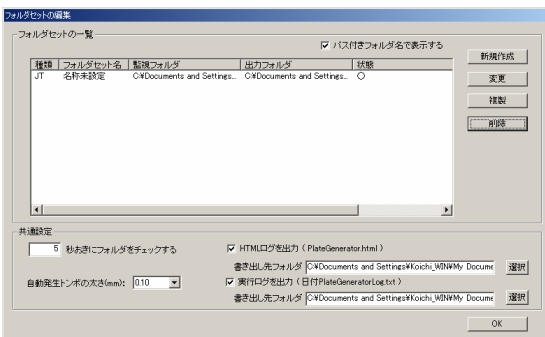
4) 「フォルダセットの基本設定ダイアログ」で適切な設定を行ってから、「詳細設定へボタン」をクリックし、「PJTF ジョブの詳細設定ダイアログ」を表示させます。



「PJTF ジョブの詳細設定ダイアログ」での設定内容については、この後の「PJTF ジョブの詳細設定ダイアログ」を参照してください。

5) 「PJTF ジョブの詳細設定ダイアログ」で適切な設定を行ってから、「OK ボタン」をクリックし、「フォルダセット編集ダイアログ」に戻ります。

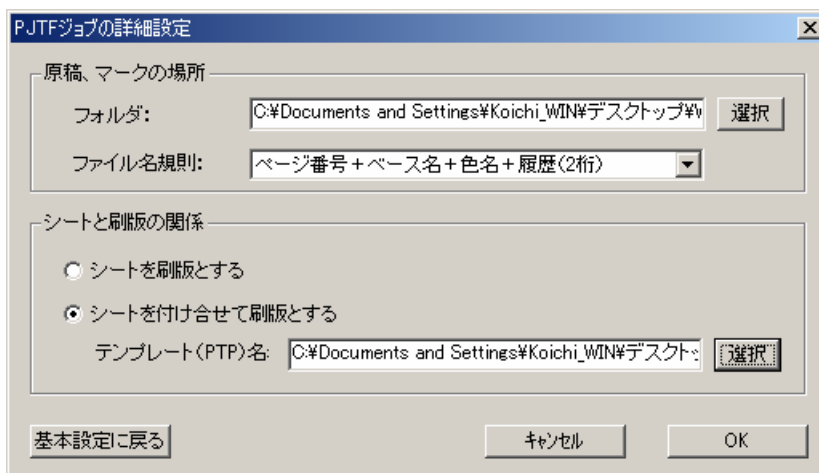
「フォルダセット編集ダイアログ」では、追加されたフォルダセットがリストに表示されます。



6 - 2 . PJTF ジョブ詳細設定ダイアログ

「PJTF ジョブ詳細設定ダイアログ」についての説明を行います。

「PJTF ジョブ詳細設定ダイアログ」



【原稿、マークの場所】

フォルダ

ページ原稿やマークの RIP 後網点画像が格納されているフォルダを指定します。尚、ここで指定したフォルダにジョブファイルのタイトル名(ファイル名から「.JT」という拡張子を取り除いたもの)と一致するフォルダがある場合、そのフォルダ内の網点画像を優先的に使用します。

ファイル名規則

RIP ファイル名規則として次の 2 つから選択します。

頁番号 + ベース名 + 色名 + 履歴番号 + 「.TIF」

頁番号 + ベース名 + 色名 + 「.TIF」

詳しくは、「本章 3 - 1 : RIP ファイル名規則」を参照してください。

【シートと刷版の関係】

シートを刷版とする（ラジオボタン）

シートと同一サイズの刷版データを生成する場合に選択します。詳しくは、「本章 2：シートと刷版の関係」を参照してください。

シートを付け合せて刷版とする（ラジオボタン）

異なるシートを自動付け合せする場合に選択します。詳しくは、「本章 2：シートと刷版の関係」を参照してください。

テンプレート（PTP）名

前記の「シートを付け合せて刷版とする」を選択した場合に、PlatePlanner で作成した刷版テンプレートを指定します。詳しくは、「本章 4 - 1：刷版テンプレート」を参照してください。

7 . PJTF-ジョブをバッチ実行する

ここでは、本プログラムのインストール後、PJTF-ジョブを一括して実行させるまでの一連の手順について説明を行います。

1) Facilis J-Plate で面付け情報を PJTF に書き出します。このときマークファイルの PS もディスクに書き出されます。

J-Plate の初期設定では、「PlateGenerator」を選択してください。

2) 原稿、およびマークの PS ファイルを RIP で網点画像に変換します。

変換後の網点画像のファイル名が、PlateGenerator で取り扱えるファイル名になるように RIP 側で設定を行います。

3) PlateGenerator を起動して、PJTF ジョブ用のフォルダセットを作成します。

付け合せを行う場合には、予め PlatePlanner で刷版テンプレートを作成しておく必要があります。

4) 「基本画面」の「稼動ボタン」をクリックして、稼動状態にします。

5) Windows エクスプローラで、PJTF を監視フォルダにコピー（または移動）します。

数秒後、監視フォルダ内のジョブ（PJTF）の実行が始まります。

8 . エラー情報

PJTF オプション特有のエラー情報について説明を行います。

「処理すべきカラー情報がありません」

シートの使用色が判別できなかったことを意味します。原因としては、マーク画像のファイル名が指定されている RIP 後ファイル名規則に適合しない場合や、マーク画像のファイル名から抜き出した色名がカラー定義テーブルに登録されていないなどが考えられます。

「テンプレートが見つかりません」

付け合せ処理の場合に、刷版テンプレートファイルが見つからないことを意味します。

「シートが大きすぎてテンプレートに配置できません」

付け合せ処理の場合に、テンプレートで設定されている刷版サイズよりもシートサイズの方が大きくて処理できないことを意味します。